

平成 26 年 2 月の解説（府県天気予報）

【2 月の天候状況】

上旬は、4 日に寒冷前線が北日本を通過した後、6 日にかけては冬型の気圧配置が強まり、寒気が日本の南まで南下しました。その後も下層に寒気を伴った高気圧が日本海に張り出す一方で、7 日から 8 日にかけては低気圧が日本の南岸を発達しながら通過し、東・西日本太平洋側でも雪や雨となり、関東甲信地方では記録的な大雪となったところがありました。旬降水量は、北・東日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美でかなり多くなりました。

中旬は、大陸の高気圧が下層に寒気を伴って日本海に張り出す状況が続きました。一方、低気圧が周期的に日本の南を通過し、北日本から西日本にかけての太平洋側を中心に雪や雨となりました。中でも、14 日から 16 日にかけては太平洋側の各地で大雪や大雨となり、関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を大幅に上回る記録的な大雪となりました。東日本太平洋側では、降水量が平年の 333% となって、統計を開始した 1961 年以降最も多い値を更新しました。16 日から 19 日にかけて北日本では強い冬型の気圧配置となり、所々で暴風雪となりました。

下旬は、21 日から 23 日にかけては、北日本を中心に弱い冬型の気圧配置が続きました。北・東日本日本海側では曇りや雪または雨となり、その他の地方は概ね晴れましたが、全国的に気温の低い状態が続きました。24 日から 26 日にかけては移動性高気圧に覆われて全国的に晴れました。北日本太平洋側では、降水量が平年の 7% となって、統計を開始した 1961 年以降最も少ない値を更新しました。

月平均気温は、沖縄・奄美で高くなりました。月降水量は、東日本太平洋側ではかなり多く、北日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美で多くなり、3 地点で 2 月の月降水量の多い方からの 1 位を更新しました。一方、東日本日本海側ではかなり少なくなり、福井では 2 月の月降水量の少ない方からの 1 位を更新しました。降雪の深さ月合計は、東・西日本太平洋側ではかなり多く、北日本太平洋側で多くなり、16 地点で 2 月の降雪の深さ月合計値の多い方からの 1 位を更新しました。一方、北日本から西日本にかけての日本海側では少なくなりました。月最深積雪は、北日本、東日本太平洋側で平年を上回ったところが多く、11 地点で 2 月の月最深積雪の大きい方からの 1 位を更新しました。

【2 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 85% で、明後日予報は例年値と同じ 80% でした。各地方の適中率では、明日予報は、例年値に比べ東海地方で 8 ポイント、九州南部地方で 11 ポイント高い一方、北陸地方で 6 ポイント低くなりました。明後日予報は、例年値に比べ関東甲信地方で 5 ポイント、東海地方で 10 ポイント高い一方、北陸地方で 8 ポイント、中国地方で 12 ポイント、四国地方で 5 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.4 でした。各地方の予報誤差では、例年値と同じか小さくなり、近畿地方で 0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.5 でした。各地方の予報誤差では、例年値と同程度となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4 月の天気予報の利用にあたって】

4 月は移動性高気圧に覆われた穏やかな日が多くなりますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過するときには、雨や風が強まって荒れた天気になることもあります。また、多雪地域では雪どけが一層進みますので注意が必要です。災害をもたらすような荒天が予想される場合は気象情報や警報・注意報を発表しますので、最新の情報を参照して下さい。